

はじめ通信

HAJIME TSUSHIN

佐々木 紀 後援会機関紙 Vol. 12

近づく北陸新幹線 県内全線開通

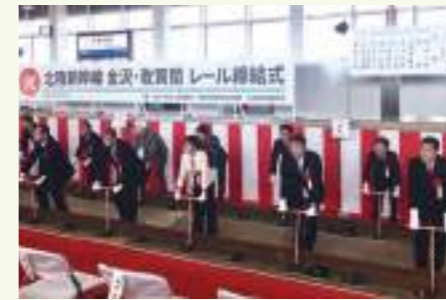
2024年3月16日、敦賀延伸が実現



まもなく南加賀を走るW7系

北陸新幹線は平成27年3月14日に長野から金沢まで240kmが開業して以来9年、来年3月に念願の石川県内全線が開通します。昭和40年代半ばから整備への機運が高まった北陸への新幹線。一時は北アルプス直下を貫通するなどのルートも検討されましたが、その後旧国鉄の財政難などで整備計画が凍結となり、北陸方面への新幹線は全く見通しが立たない状態となりました。

しかし国鉄の民営化や平成10年の冬季オリンピック開催などを機に、新幹線は長野まで開通。やがて北陸への延伸事業が進められましたが、経済事情の変化や政権交代による建設方針の変更などで整備事情が遅れ気味でした。しかし自公両党のプロジェクトチームが粘り強く取り組んだ結果、まず金沢までの開業にこぎつきました。その後、佐々木代議士も情熱を注いできた金沢以西の延伸促進事業は数多



北陸新幹線 金沢・敦賀間レール締結式 (5月27日)



W7系試験走行 加賀温泉駅歓迎セレモニー (10月1日)

くの難題を乗り越えて来春、いよいよ石川県内全線が開通します。今や国土交通部門のエキスパートとなった佐々木代議士は、このあと大阪までの全線開通を促進するために全力を傾けます。

国会や党の重職が相次ぐ!!

先の国会では、歴代総理の多くが務められた「議事進行係」という重責を無事務め終え、ほつとしたのも束の間、党からの強い要請で、さらに重い役職である「部長」への就任が決まり、緊張が高まる日々です。



衆議院議事進行係として

「議事進行係」を務め終えて 2022

昨年10月3日に召集された第210回国会にて「議事進行係」に就任しました。議事進行係とは、本会議中に「ぎちよっ」と独特の言い回しで動議を求め、議事の進行を促す衆議院の伝統ある役職です。元々は1894年の帝国議会で当時の議員のひとり、騒然とする議場内を鎮めるため大声で叫んだのが始まりとされます。

第210回国会では17回、第211回国会では13回、合計30回の動議を提出しました。「コロナ禍でマスクを着用し、息苦しい中での動議や、財務大臣不信任案、内閣不信任案な

ど気が重い動議がありました。欠席が許されないゆえに体調管理が大変なこともありましたが、一方で与野党の多くの議員の方々に、石川の佐々木紀を知っていただくことができ、貴重な経験ができたと感じています。



本年9月29日自民党国土交通部長を拝命しました。国土交通省関連の政策について部会を開催し、議論

2023

「自民党 国土交通部長」を拝命

をまとめていく大変重い職責になります。

「部会」は、政策を作る「政務調査会」において、各政策分野ごとに設けられるものです。国土交通部会は、国土交通省が所管する政策を策定します。部会では、議員や業界、有識者などの意見や要望を部長が取りまとめ、政調審議会に上程し、審議を受け、承認された後は、総務会を経て、党の政策となる...という流れです。

国土交通省所管の課題は多く、街づくりや住宅政策、災害復興や国土強靱化対策、公共交通や道路などの交通ネットワーク政策、物流や観光政策、気象や海上保安など国民生活に密着した幅広い分野を所管しています。地元石川においても道路や河川の整備、北陸新幹線の早期開通や観光業への支援等、課題が山積しています。

未来へ

南加賀の産業・文化のさらなる活性化へ



白山市の発展に多大なご功績を残された、山田憲昭前市長のご冥福をお祈りいたします。

金沢止まりだった新幹線が県内全線開通によって、停車駅の小松駅や加賀温泉駅から南加賀全域に経済効果が広がるのが期待されます。

敦賀開業と同時期に白山市宮保町地内で開業されるトレインパーク白山(白山市立高速鉄道ビジターセンター)。展示施設があるほか、特産品の販売コーナーや遊具施設、車両の運転シミュレーターなど、多彩な施設が楽しめます。また展望室からは走行する新幹線車両が間近で見られ、屋上からは白山連峰が眺望できるなど、くつろぎのひと時を過ごすことができます。

今回、自民党国土交通部長を拝命した佐々木代議士。これまでの議院運営委員会理事や議事進行係に続いて重職に就任し、さらに代議士としての実績の道を進んだ感があります。党の要職を担うことは実力ある議員への登竜門でもあり、国土交通という国政の中核ともいえる部門で、政策立案の責任者として抜擢されたことに大きな期待が寄せられます。衆議院の任期が折り返しの2年を過ぎ、「解散風」が吹き始める中、佐々木代議士は、一心不乱に重責に向かっています。

編集後記

岡田直樹
地方創生大臣と
被災現場視察
(9月11日)



災害
対策

DISASTER PREVENTION MEASURES



梯川水系
緊急治水対策
プロジェクト
起工式
(6月10日)

ふるさとの安全を守るために

去年8月に豪雨災害が発生した梯川水系などの治水対策として河道掘削や堤防拡幅などの工事が前倒しとなりました。また令和4年第二次補正予算にほぼ要望通りの内容が確保されました。さらに5月に珠洲市で起きた地震についても「災害救助法」や「被災者生活再建支援法」の迅速な適用決定を行いました。今後も災害発生に際しては被災地や被災者に寄り添った、きめ細かい支援に取り組みます。

伝統的工芸品産業振興議員連盟事務局長として
▼ 伝統工芸 青山スクエア「工芸文具展」視察・ご案内 (4月6日)



MANUFACTURING



石川県には、時代の最先端をゆく製品づくりの技術と尊い歴史を受け継いできた伝統産業の技がともに輝いています。日本の国づくりを支えているのは、地方の力。南加賀地域のものづくりは国にとってもかけがえのない財産です。国としても地方の企業における雇用の維持・創出などの課題に取り組み、安定的な事業展開ができるようにサポートしていきます。このところ地元に戻る時間が限られる中でも、現場の声をできるだけ多くお聞きするように努め、働く人の立場に立った政策の提案・実現をめざしています。

▼ 西村経済産業大臣と白山市のものづくり企業を視察(6月3日)

もの
づくり

日本の経済浮上の
カギは地方の企業力

SPORTS AND HEALTH

スポーツで健康な国づくりを

スポーツ

▼ 雙十國慶節祝賀パレードに参加(10月10日)



▲ 台湾 蔡英文総統と(7月5日)

7月と10月に台湾を訪問しました。7月は日本最西端の与那国島に向かい、台湾から船で訪れた立法院長をお迎えて懇談。そのあと史上初めて両国会議員が船で台湾に渡航しました。かつて党の青年局長を務めた時代から、日本と台湾の関係強化に努めてきましたが、今回も蔡英文総統や賴清徳副総統と面会し、改めて日台友好を確認しました。10月10日には日華議員懇談会設立50周年を記念し、事務局として約50人の国会議員団を引率し、「2023年雙十國慶節祝賀パレード」に参加しました。

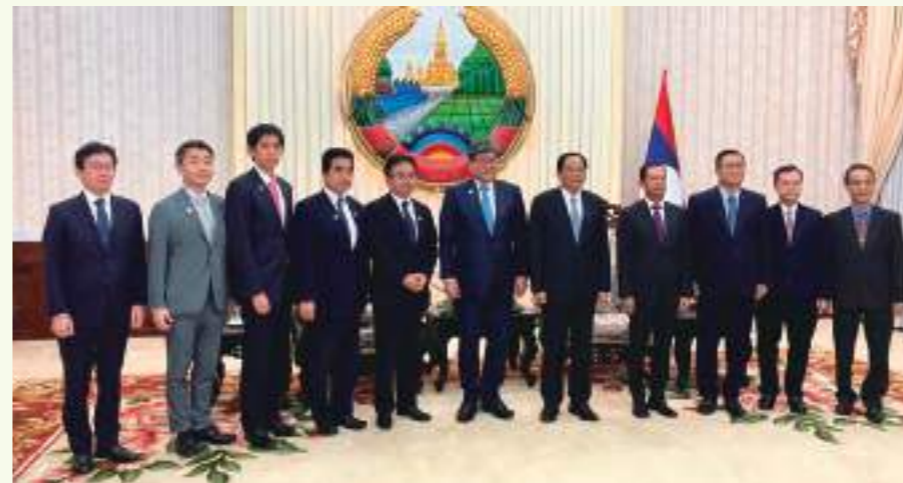
日台両国会議員と与那国島訪問(7月4日)



▲ タイ 高専訪問(7月12日)



▲ ベトナム チン首相と(7月10日)



▲ ラオス ソーンサイ首相と会談(7月11日)

▼ 日本バレーボール協会の川合会長とバレーボール振興議員連盟の茂木会長、朝日事務局長、佐々木が幹事長(11月22日)



▼ シンガポール「ナショナルスタジアム」を視察(6月26日)



スポーツの振興には、「する・見る・支える」という3要素を充実させなければなりません。その一つが学校部活動の地域移行に伴う指導者の確保や施設の充実といった地域スポーツの受け皿づくりです。「する人」「支える人」の環境整備です。またスポーツの産業化によるスポーツエコシステムを作り、「見る視点」からスポーツを考え、地域活性化にも繋がります。



アジアの
一員としての
役割を
果たすために。

7月にベトナム、ラオス、タイを訪問しました。今年がASEAN 50周年の記念すべき年。安倍元総理が提唱された「自由で開かれたインド太平洋戦略」を実現する上でASEANとの連携は極めて重要な外交課題です。日本とベトナムは本年で外交関係樹立50周年を迎え、ラオスは再来年が日本との外交関係樹立70年、来年のASEAN議長国です。また、6月にはシンガポール、9月にもベトナムを訪問。各国との友好促進に努めています。ASEAN諸国では日本との連携に対する期待が大きく、日本は重い役割と責任を担っています。